

研究・調査報告書

報告書番号	担当
34	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Intake of wine, beer, and spirits and the risk of clinical common cold ワイン、ビール、スピリッツ摂取と感冒症を患う危険度	
執筆者	
Bahi Takkouche, Carios Regueira-Mendez, Reina Garcia-Closas, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
American Journal of Epidemiology 155:853-8, 2002.	
キーワード	
飲酒、アルコール飲料、コホート研究、感冒、ワイン	
要旨	
<p>ワイン、ビール、スピリッツ類、総アルコール摂取量が感冒の発症危険度と関連しているか否かをコホート研究により明らかにした。コホートは、5箇所のスペインの大学教職員であり、1998年から99年までの一年間4,272人を追跡した。この期間、1353件の感冒症例が発症した。総アルコール摂取量、ビール、スピリッツ類の飲用量は感冒の発症危険度との関連はなかった。しかし、ワイン消費量は感冒発症危険度と負の関連があった。1週間に14杯より多くワインを飲む人では、生涯非飲酒者よりも感冒にかかる危険度は低く、年齢、性、教員、職員の状況を補正しても相対危険度は0.6で有意であった。この関係は、総アルコール摂取量や他の感冒罹患の危険因子を考慮に入れても変わらなかった。これらの結果から、ワイン消費には感冒を予防する要因があると考えられた。しかし、ビールやスピリッツ、総アルコール消費量には、その予防効果はないと考えられた。</p>	